

「防災教育テキスト」を活用した防災教育

学校名	山口市立小郡中学校	実施時間	学級活動
-----	-----------	------	------

1 訓練のねらい

- 地震による津波が発生した際、自らの安全確保を第一に、迅速かつ的確な避難行動ができるよう生徒の危機意識及び危機対応能力を高める。
- 小中連携による訓練により、生徒が自らの安全を確保しつつ、年少者である児童の安全にも配慮し、助け合うことの大切さを学ばせる。

2 訓練の日時

平成26年11月5日（水） 11:30～12:30

3 事前指導と準備（「防災教育テキスト」を活用した指導と準備）

- ◇ 地震等、突発的な自然災害が発生した場合は、放送や教職員の指示に従い、落ち着いて静かに行動する。
- ◇ 地震が発生した場合は、身の安全を確保するために、机など丈夫な物の下に潜り、机であれば対角の脚をしっかりと持ち、机が倒れないようにする。
- ◇ 二次避難場所に避難する際、中学生は隣接する小学校の児童に声をかけ、中学校3年生は小学校1, 2, 3年生の手を引くなど、協力して避難する。
- ◆ 児童生徒の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であることも意識して取り組む。
- ◆ 校外への二次避難場所への訓練であるので、事前に警察、地域、保護者等に連絡し協力を得るとともに、交通安全に十分留意する。

4 展開（訓練の流れ）

地震発生時、隣接する小郡小学校は各教室で授業中という想定で取り組んだ。地震発生後、身の安全を確保し、自校のグラウンドに一次避難し、二次避難場所（山手一番館）に移動する途中に小郡中学校のグラウンドを経由する。その際、低学年（1, 2, 3年生）が安全に二次避難できるように、中学校3年生が手を引いて一緒に避難する。

※ 小学校から二次避難場所に行くまでに中学校があり、避難移動時間にロスはほとんどない。

※ 小学校高学年及び中学校1, 2年生は教職員の指示のもと二次避難をする。

状況	教師の働きかけ・指導上の留意点	生徒の動き
<p>11:30 地震発生</p> <p>① 安全確保</p> <p>11:32 揺れが収まる</p> <p>② 情報収集及び避難場所の決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急放送をする。 ・各教室で安全行動の指示をする。（生徒に机の下に潜る指示） ・情報収集をする。（学校施設の破損状況、火災発生はないか、避難経路に問題はないか、津波など二次災害はないかなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて放送を最後まで聞き、机の下等で身の安全を守る。 
<p>③ 一次避難場所への避難</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・放送により指示をする。 ・生徒の誘導をする。（あらかじめ定めた避難経路に従って避難） 	<ul style="list-style-type: none"> ・下足に履き替え、「無言、安全、迅速」にグラウンドに避難する。
<p>④ 安全確認（点呼）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を整列させ、点呼をとり、行方不明者及び負傷者の有無を確認した上で、報告する。 <p>《報告順》 担任→学年主任→教頭→校長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、学級ごとに整列し、点呼に備える。 

<p>11:40 津波警報発令</p> <p>⑤ 二次避難場所への避難</p> <p>⑥ 安全確認（点呼）</p> <p>⑦ 指導講評</p>	<ul style="list-style-type: none"> 津波警報が発令されたことを伝え、1・2年の生徒を二次避難場所へ誘導する。 3年生は、小学校低学年の児童とペアを組ませ、避難させる。 二次避難場所に避難後、児童と生徒の整列場所を指示し、点呼を行う。 ※報告は一次避難時と同じである。 ☆二次避難場所に避難が完了するまでの時間を測定し、津波の予想到達時間と照らし合わせ、二次避難場所が適切かどうか確認する。 校長による指導講評を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の指示に従い、周りの状況に注意しながら二次避難場所に移動する。 3年生は小学校低学年の児童の手を引いて、協力して安全に避難する。  <ul style="list-style-type: none"> 指導講評を聴きながら、自分の避難行動について振り返る。
--	---	---

5 避難訓練の成果と課題

(1) 感想（生徒、教職員）等

- ◇ 初めての経験でしたが、小学生の手を引きながら、「もし災害が発生した時には、自分が弱い立場の人たちをしっかりと守らなくては」という気持ちを強くもちました。 [生徒]
- ◇ 3.11の東日本大震災が発生したとき、被災した方々がともに助け合う姿がとても印象に残っています。今回の訓練で、自分の身の安全を図ることだけでなく、周囲への配慮や協力がとても大切であるということが分かりました。 [生徒]
- ◇ これまでの学校単独での実施に比べ、職員として訓練に臨む姿勢が違っていることを少なからず感じた。また、小学生の手を引きながら安全に避難する経験は、本校3年生にとって大きな成長材料になったと思われる。 [教員]

(2) 課題

- 小中合同訓練にあたり、実施期日・時間の調整が難しい一面があった。
- 今回は激震・津波発生という、災害としては最悪のシナリオを想定した訓練であり、その中で安全に避難することを最優先課題とした。実際に災害が発生した際に、状況に応じた冷静な判断や的確な対応、また、周囲と協力できる姿勢等を養うための訓練となるよう、シナリオや内容、さらには地域との連携等を今後も検討し、改善を図っていく必要がある。

(3) 今後（次年度）に向けて

上記のような課題があったものの、結果的には11月5日の「津波防災の日」において本格的な訓練が実施でき、本校生徒も真剣に臨み、何よりも小学生に対する優しさを発揮できたことに今回の訓練の意義を感じている。

また、今回、おごおり地域づくり協議会や小郡地域交流センター等地域の関係機関に訓練の様子を見ていただいた。次年度以降は、小・中学校ともに地域とも連携した、より実践的な訓練を行いたいという思いがあるため、今回の成果や課題を踏まえた、より効果的な「地震津波防災訓練」の具現化を図っていきたい。

